

平成28年度 第1回北海道立総合博物館協議会 議事概要

会議名	平成28年度 第1回北海道立総合博物館協議会
開催日時	平成28年8月10日(水) 10時～12時10分
開催場所	北海道博物館 記念ホール
出席委員	佐々木会長、宇佐美委員、児島委員、竹垣委員、本田委員(5名)
欠席委員	加藤副会長、大原委員(2名)

議 題

- (1) 報告事項1 平成27年度事業実績について
右代啓視学芸主幹が、資料1に基づいて説明を行った。

【議題(1)に関する委員の意見】

8 施設及び周辺環境の整備

- ・オリジナルグッズの販売収入の取扱いはどうなっているか。グッズの販売、カフェの運営は博物館との協議、承認のもと行われているのか。

<回答> 通常の売り上げについては、指定管理者の収入となる。「夷酋列像」展の図録解説書については、実行委員会の収入になった。グッズの販売や、カフェの運営については、必要に応じて打合せを実施している。

9 広報

- ・「赤れんがサテライト」の利用者数はどのように数えているのか。展示等について、利用者の意見はあるか。

<回答> 赤れんが庁舎入口の警備室でカウントした人数を、「赤れんがサテライト」の利用者数としている。利用者の意見聴取は実施していない。

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・「蝦夷酋列像」展満足度アンケートに寄せられた不満意見は、どのような内容か。展示内容と直接関係ないことが、評価を落とす原因になる。

<回答> ネーム・解説パネルが小さい、展示室が暗い等の意見が寄せられた。

- (2) 報告事項2 平成28年度事業計画について

舟山直治学芸部長、北敏文総務部長、小川アイヌ民族文化研究センター長が資料2に基づいて説明を行った。

【議題(2)に関する委員の意見】

1 資料の収集・保存

- ・北海道博物館としての資料収集方針や体制の整備を進めて欲しい。

2 展示

- ・今年度下半期の企画展計画について、具体的に示して欲しい。
- ・「すべての人が利用しやすい」とあるので、障がい者に対する具体的な取組を進めて欲しい。
- ・高齢者に対する取組は、バリアフリーだけではなく、他の取組を考えていただきたい。

3 調査研究

- ・調査研究について「目標を明確化」とあるが、いままで明確にしていなかったのか。

4 北海道開拓の村の整備

- ・開拓の村に関することは、博物館の事業になるのか。

5 教育普及事業

- ・高校生・大学生に対する取組は、具体的にどのように進めるのか。

7 道民参加型組織の整備

- ・道民参加型組織について、ミュージアム・パートナー、友の会を今年度中に具体化して欲しい。
- ・道民参加型組織には二つの文脈があり、ひとつは道民が活動する場の提供、もうひとつは博物館運営に対する意見を述べる組織。後者も含めて、博物館の計画全体について、いつまでに、何を、どこまでやるのかを、計画に明記して取り組むべき。

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・総入館者数のうち、アンケート調査に答えたのはどれくらいの割合か。
- ・博物館に対する新しいニーズを作る取組は実施されているのか。
- ・年2回の協議会のうち、1回目については、できるだけ年度の早い時期に開催して欲しい。

11 博物館ネットワーク

- ・道内外、国外の博物館との関係は、どのような方向性をめざしているのか。

12 情報発信

- ・取組がインターネットに偏りすぎている感じがする。

13 研究成果の発信と社会貢献

- ・研究紀要の有償頒布の必要性は何か。

その他

- ・年度計画の記述が抽象的である。展示会やイベントなど、事業の具体的な実施時期や内容を示すべき。
- ・計画の目標値はもっと高くても良い項目がある。5ヶ年の中期計画の見直しも見すえて、数値を設定すべき。
- ・アウトプットとしての実績は報告書からわかるが、アウトカムとしての実績も報告して欲しい。
- ・計画策定と事業実施の整合性ははかれているのか。例えば、計画以上の入館者数となった場合、それに見合うだけのサービスの提供がなされるよう計画を修正して実施すべき。
- ・事業を実施するにあたり、館内調整がすべてうまく進んでいるか。ぶつかり合うことはないのか。

(3) その他

- ・環境生活部文化振興課堀籠正主幹が百年記念施設あり方検討会議について報告を行った。
- ・右代啓視学芸主幹が今後の協議会スケジュールについて説明を行った。